



大泉小だより

令和4年6月30日
練馬区立大泉小学校

日本の四季は……

校長 佐々木 秀之

6月27日、気象庁は「関東甲信地方、東海地方、九州南部が梅雨明けしたとみられる」と発表しました。関東甲信地方は平年より22日も早く、統計依頼最も早い梅雨明けです。6月は陰暦では「水無月（みなづき）」です。田植えに多くの水を必要とする月であり、水無月の「無」は「ない」ではなく「の」と読み「水の月」という意味だそうです。

今年の梅雨の期間の降水量を平年と同じ時期で比べてみると、東京都心の降水量は、平年の46%しかなかったそうです。今年の「水無月」の「無」は「の」ではなく「ない」月になってしまいました。

*

日本人、日本文化に深い影響を与えてきた四季。しかし今、日本の四季が崩壊しているかのようで、季節感が薄れつつあります。四季と人間との関わりは深く、四季の崩壊は人間らしさの喪失にもつながりかねません。四季は日本の文化に密接に関わってきました。住居はもちろん、詩歌、絵画、工芸や年中行事のほとんどが四季を軸に展開しており、国民性に深い影響をもたらしました。また、地域によって四季にも違いがあり、その地域性と風土が生活、文化、産業や制度に多くの影響を与えています。四季によって生まれた文化から、日本人らしさもまた、生まれていきました。「おもてなしの精神」「わびさび」「美意識」「繊細さ」「技術」「情緒の豊かさ」「和食」…等。

昨今、夏には日本各地でこれまで経験したことのないような集中豪雨が発生し、一日の最高気温の国内最高記録が更新されています。一方、冬は関東甲信地方を中心に記録的な大雪に見舞われることもしばしばです。将来、東京の気象、日本の四季はどのようになってしまうのか不安を覚えます。

世界的に見ても、気候変動が気温上昇や海水温・海面水位の上昇をもたらし、何十年に一度とされる規模の自然災害が毎年のように発生しています。気候変動の影響は、遠い世界、未来のものではなく、既に我々の身近な生活に及んでいて、「ポイント・オブ・ノー・リターン（回帰不能点）」はすぐそこなのかもしれません。

*

先週から水泳指導が始まりました。体育で水泳指導があるのは、世界中でも珍しい国の一つです。「日本の夏」「伝統の夏」、どこかのCMではありませんが、日常生活・学校生活の中で、十分に日本の四季を感じさせたいと考えています。一方で、酷暑とならないことを、ゲリラ豪雨が少ないことを願っています。